

全国学力・学習状況調査 東浦町の調査結果について

令和6年度全国学力・学習状況調査 東浦町の調査結果について

令和6年4月18日（木）に実施された全国学力・学習状況調査について、東浦町の調査結果の概要、及び調査結果を踏まえた改善策をお知らせします。

1. これまでの経過

4月 18日（木）	令和6年度 全国学力・学習状況調査の実施
9月 17日（火）～	個人結果の配付
9月 17日（火）～	町内各小中学校にて調査結果の分析と改善策検討
11月 11日（月）	定例教育委員会にて調査結果を踏まえた改善策検討
11月 29日（木）	調査結果の町HP掲載

2. 全国学力・学習状況調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 取組を通して、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

3. 東浦町対象児童生徒数

- 小学校第6学年児童 493名
- 中学校第3学年生徒 501名

4. 調査内容

(1)教科に関する調査(国語、算数・数学)

それぞれ次の（ア）と（イ）を一体的に出題

- （ア）身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- （イ）知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

(2)生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

5. 教科に関する調査の結果

○小学校では以下のような結果が見られた。

【国語】愛知県の平均正答率・全国の平均正答率ともにやや低い結果が見られた。

【算数】愛知県の平均正答率・全国の平均正答率ともにやや低い結果が見られた。

○中学校では以下のような結果が見られた。

【国語】愛知県・全国の平均正答率ともにほぼ同じ結果が見られた。

【数学】愛知県の平均正答率とほぼ同じ、全国の平均正答率よりやや高い結果が見られた。

本町での(※)よい傾向や課題、結果、及び問題(一例)については以下のとおりです。

(※):全国平均正答率を5%以上、上回るもの(○)と下回るもの(●)

(1) 小学校

○国語

「我が国の言語文化に関する事項」「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」に特に課題が見られました。「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「C 読むこと」については全国の平均正答率よりやや低い結果が見られました。

●「我が国の言語文化に関する事項(一例)」

- ・読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかどうかをみる。
(原さんの読書の記録の空欄に入る内容として適切なものを選択する。)

●「A 話すこと・聞くこと」に関する問題(一例)

- ・目的や意図に応じて集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかをみる。
(和田さんのメモがどのように役立ったのかを説明したものとして、適切なものを選択する。)

●「B 書くこと」に関する問題(一例)

- ・目的や意図に応じて集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる。
(高山さんのメモの書き表し方を説明したものとして、適切なものを選択する。)

○算数

「A 数と計算」「C 変化と関係」「D データの活用」に特に課題が見られました。「B 図形」については全国の平均正答率よりやや低い結果が見られました。

●「A 数と計算」に関する問題(一例)

- ・数量の関係を□を用いた式に表すことができるかどうかをみる。
(はじめに持っていた折り紙の枚数を□枚としたときの問題場面を表す式を選ぶ。)

●「C 変化と関係」に関する問題(一例)

- ・速さが一定である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる。
(3分間で180m歩くことを基に、1800mを歩くのにかかる時間を書く。)

●「D データの活用」に関する問題(一例)

- ・円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる。
(円グラフから2023年の桜の開花日について、4月の割合を読み取って書く。)

(2) 中学校

○国語

「A 話すこと・聞くこと」については、全国の平均正答率よりやや低い結果が見られました。その他の領域においては、全国の平均正答率とほぼ同じ結果が見られました。

「A 話すこと・聞くこと」に関する問題(一例)

- ・必要に応じて質問しながら、話の内容を捉えることができるかどうかをみる。
(話し合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する。)

○数学

「A 数と式」「D データの活用」については、全国の平均正答率よりやや高い結果が見られました。その他の領域においては、全国の平均正答率とほぼ同じ結果が見られました。

「A 数と式」に関する問題(一例)

- ・等式 $6x + 2y = 1$ を y について解く。
(等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる。)

「D データの活用」に関する問題(一例)

- ・2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも裏が出る確率を求める。
(簡単な場合について、確率を求めることができるかどうかをみる。)

6. 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査の結果

学習状況(学習意欲・学習方法・学習環境等)について、全国及び愛知県と比較してよい傾向や改善を図りたい項目は以下のとおりです。

(1) よい傾向

- 朝食を毎日食べている割合が高い。(小学校・中学校)
- 人が困っているときは進んで助けている割合が高い。(小学校・中学校)
- いじめはどんな理由があってもいけないと思っている割合が高い。(小学校・中学校)
- 人の役に立つ人間になりたいと思っている割合が高い。(小学校・中学校)
- 普段の生活の中で幸せな気持ちになる割合が高い。(小学校)
- タブレットを活用することについて、分からないことがあったときにすぐ調べることができると考えている割合が高い。(小学校・中学校)
- タブレットを活用することについて、画像や動画、音声等を活用することで学習内容がよく分かると感じている割合が高い。(小学校)
- タブレットを活用することについて、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると感じている割合が高い。(中学校)
- 国語の勉強は大切だと思う割合が高い。(中学校)
- 算数の勉強は大切だと思う割合が高い。(小学校)
- 算数の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思っている割合が高い。(小学校)
- 英語の勉強が好きという割合が高い。(小学校)
- 放課後や週末に地域の活動に参加している割合が高い。(中学校)

(2)改善を図りたい項目

- 地域や社会をよくするために何かしたいと思っている割合が低い。(小学校)
- 普段1日当たりテレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をする時間が多い。(小学校)
- 国語の授業で目的に応じて話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたり結び付けたりしながら伝える内容を考えていると答えた割合が低い。(小学校)
- 国語の授業で自分の考えが伝わるように表現の効果を考えて文章を書いていると答えた割合が低い。(中学校)
- 算数・数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしている割合が低い。(小学校・中学校)
- 自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見出したりすることがあると答えた割合が低い。(小学校・中学校)
- 理科の授業で自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていると答えた割合が低い。(中学校)
- 英語を聞いたり読んだりして、一文一文ではなく全体の概要や要点をとらえる活動が行われていたと答えた割合が低い。(中学校)
- 総合的な学習の時間で自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると答えた割合が低い。(小学校)
- 学級生活をよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると答えた割合が低い。(中学校)
- 学級活動における学級での話し合いを生かして、今自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると答えた割合が低い。(中学校)
- 今回の調査で書く問題で回答しなかったり回答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつたと答えた割合が高い。(小学校)
- 今回の調査で時間が余ったと答えた割合が高い。(小学校・中学校)

7. 調査結果を踏まえた改善策

以上の調査結果を踏まえ、東浦町教育委員会では以下の取組を推進します。

(1)学習意欲の向上、学習習慣の定着を図るために、授業改善を進めます。

<具体的な取組>

- ・校内外での職員研修を通して、主体的・対話的で深い学びの授業の実現に向けて共通理解を図り、粘り強く学習に取り組み、達成感、満足感を得ることができる授業づくりを進めます。
- ・個別最適な学びを意識した授業づくりを進めます。また、教育活動全体を通して自分の考えを明確にし、それを基にした話し合い・伝え合いの時間を取り入れ、考えを深めたり、広げたりすることができるような授業づくりを進めます。
- ・多様な考え、新たな見方や考え方を受け入れ、一人一人の考えや活動のよさを認め合う授業づくりを進めます。

(2)学校、家庭、地域が連携し、望ましい生活習慣や学習習慣の定着を図る取組を進めます。

<具体的な取組>

- ・携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について連携し、望ましい使用の仕方となるよう情報モラル教室等で啓発し、よりよい家庭学習の在り方につなげます。
- ・「家庭での会話」時間づくりや学習時間づくりを進めるなど、児童生徒が家庭においても主体的に自らの生活習慣や学習について見直すよう、啓発をしていきます。
- ・ボランティア活動などに参加し、地域との連携を深めることを通して、自らの生き方や身近な地域・社会について深く考えるよう、啓発していきます。